

# 令和3年度 政務活動報告書（1）

会派又は議員名 鈴木 岩夫

政務活動期間	令和3年11月22日（1日間）
政務活動先	浜中町
政務活動参加者	鈴木 岩夫（1名）
政務活動項目	<ul style="list-style-type: none"><li>○庁舎建て替えの経緯（動機づけ）</li><li>○場所の選定</li><li>○建築内容の工夫</li><li>○完成、使用、その後の評価</li></ul>
政務活動項目に係る（目的・結果等の概要・所見）	別紙のとおり

## 政務活動報告書

参加者 鈴木岩夫 1名

研修地・場所 厚岸郡浜中町 役場庁舎

研修時間 2021年11月22日(月) 午前10時～11時30分

22日午前10時より2階会議室にて、建設課課長 渡部幸平氏、係長 塚田恒平氏より研修項目に沿って説明を受けた。その後、3階の議場をはじめ1階から3階まで施設見学を行った。

### 研修項目

#### 1 庁舎建て替えの経緯(動機づけ)

・歴史的経緯として、昭和27年の十勝沖地震、昭和35年のチリ沖地震による津波で甚大な被害を受けた津波災害の町であることを挙げられていました。また、平成24年6月の「津波浸水予測」北海道発表では、沿岸地区に10メートル以上の津波が襲来することが挙げられていました。

・街づくりの視点からは、現在、民間、公共で主要な施設のある霧多布地区に建設することが妥当であること。そのことが地区の衰退を緩和すること。津波新水域外に避難施設がない課題を解消することにつながることを挙げられていました。

#### 2 場所の選定については、

- ・湯沸高台の中でどこがベストプランかを検討。
- ・霧多布市街地中央部からの高台避難道路の線形を優先。
- ・避難道路に接する場所で候補地を3か所選定し、比較検討。を挙げていました。

#### 3 建築内容の工夫については、

・機能面として、基本は、避難施設・防災拠点として堅牢、強固を意識して計画(免震構造)。外部は、厳しい自然環境を重視(積レンガ、外断熱工法)。内部は、窓口機能の重視(カウンター、相談室、サイン、申請書作成支援)。熱源は、地中熱による省エネ庁舎。

・財政面として、緊急防災・減災事業債の活用。地中熱システム環境省補助(補助率3/4)。エントランスに費用をかけた分、執務エリアは経済設計(建材ボード塗装)。家具選定(徹底的に機能的で安価なものを選定。旧庁舎備品も転用)。を挙げていました。

#### 4 完成、使用、その後の評価については、

- ・眺望や使用感に関しては概ね高評価。
- ・環境は想像以上に厳しい(風速)。
- ・課題は維持管理の継続。美観、保守、庁舎内外の管理、ルール順守(職員側)。を挙げていました。

本町においては、12月議会で「基本計画」が示されます。また、現在はコロナ禍であったり、異常気象であったり、いつ、当別断層がずれるかわからない状況です。そんな折、避難施設・防災拠点として建設された浜中庁舎について研修できたことは有意義でした。